



彩の国さいたま

＜管内関係機関・認定農業者等向け情報誌＞

加須農林振興センターだより

発行 埼玉県加須農林振興センター 加須市不動岡 564-1

TEL : 0480-62-4771 FAX : 0480-62-1499

e-mail : g624771@pref.saitama.lg.jp

http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0907/



埼玉県のマスコット
「コバトン」、「さいたまっち」

(株)山中農産が飼料用米多収日本一農産局長賞を受賞！

「飼料用米多収日本一」は、生産技術の面から先進的で他の模範となる飼料用米生産者を表彰して、成果を広く紹介することで、飼料用米生産者の技術の向上を図ることを目的に、農林水産省が実施しています。

このたび、株式会社山中農産（代表山中哲大氏）が単位収量の部で農産局長賞を受賞され、令和5年7月21日に東京大学弥生講堂で表彰式が行われました。

多収性や難脱粒性に優れた品種（みなちから）を選定し、881kgの高単収を達成されています。

また、ラジコンボートを用いた除草作業や営農管理システムの活用など省力化に向けた取組や、地域の畜産農家からの堆肥購入など耕畜連携の取組も高く評価されました。

飼料用米に限らず主食用米・麦・大豆に加え、子実用とうもろこしなどの新規作物や新規技術の導入を意欲的に取り組んでおられ、山中農産の今後の事業拡大が期待されます。

【お問合せ】 管理部 地域支援担当 TEL0480-61-3404



表彰式の様子

子実用とうもろこし栽培への取り組み

子実用とうもろこしを含む配合飼料の大部分は、海外からの輸入となっており、近年の国際情勢の影響から価格の高騰が続いています。この様な状況の中、国産の子実用とうもろこしの需要が高まってきています。

株式会社山中農産では、昨年より新規に子実用とうもろこし栽培に取り組みました。今年は、昨年の約1.4haから約17haに面積を大幅に拡大しました。収穫はこれからが本格的になりますが、昨年より生育が良いことから、高収量が期待されています。



汎用型コンバインとコーンヘッダーによる収穫



収穫された子実用とうもろこし

【お問合せ】 農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

水稲新品種「えみほころ」現地検討会が開催されました！

9月1日に埼玉県育成新品種「えみほころ」の現地検討会が開催されました(参加者約60名)。昨年は加須市種足地域、今年有加須市高柳地域と、管内では昨年より2回目の大規模実証ほの栽培になります。収穫期は「彩のきずな」と「彩のかがやき」の中間です。当センター管内は県内有数の米産地であり、「えみほころ」は登熟期における高温耐暑性が優れた品種として有望視されています。当日は採種に携わる各関係機関とともに、多くの採種生産農家の方々も参加されました。収穫は9月下旬頃を予定しています。【お問合せ】農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911



現地検討会の様子

<えみほころの主な特性>

出穂期及び成熟期：「彩のきずな」と「彩のかがやき」の中間。

収量：「彩のきずな」、「彩のかがやき」と同等。 食味：「彩のきずな」「彩のかがやき」と同等の良食味。

花も避暑！ シクラメンの山上げ栽培

「山上げ栽培」とは花やいちご等の苗を栽培する際に高冷地に移し低温に当てることで開花調節する栽培方法の1つです。シクラメン栽培では、夏期の高温・高湿度による生育障害を回避し、高品質な苗を栽培する目的もあります。行田市内の生産者が本栽培方法に取り組んでおり、栃木県日光市の男体山のふもとで7月上旬から9月中旬頃にかけてシクラメンの苗を管理し、その後徐々に行田市内のビニールハウスに苗を運ぶ「山下げ」を行います。当センター職員が8月末に訪問し、苗の生育状況の確認を行いました。今後も生産者が高品質な花を生産できるよう支援を行っていきます。 【お問合せ】農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911



栽培状況聞き取りの様子



シクラメン苗の様子

県営かんがい排水事業『手子堰地区』が完了しました

羽生領島中領用排水路土地改良区が管理する『手子堰（てこぜき）』は、加須市多門寺地内の一級河川手子堀川に設置された農業用の取水堰で、約170haの田に農業用水を供給しています。

昭和初期の造成から80年以上が経過しており、過去にゲート設備の補修を行いながら使用されてきましたが、経年劣化により鋼製ゲートが腐食し、コンクリートの摩耗やひび割れが見られる状況でした。

このため、施設の機能の診断調査を行い、令和2年度に今後の補修計画や長期的な対策方針を定めた手子堰の機能保全計画を策定しました。

計画に基づき、令和3、4年度の2か年をかけて鋼製ゲートの塗装や操作盤の更新、堰柱コンクリートの補修や安全施設の設置などを行い、令和5年3月に全ての工事が完了しました。

今後も機能保全計画に基づき、定期的な施設の監視や計画的な補修を行うことにより、長く活躍する施設として期待されます。

【お問合せ】農村整備部 県営事業担当 TEL0480-62-4582



整備前



整備後

水辺周辺活用事業『会の川地区』で護岸改修を実施中です

『会の川』は、羽生市から加須市街を流れる農業用排水路です。埼玉県では、地域の方々に広く親しまれるような水辺空間の整備を目的として、加須市及び近隣町内会等と連携し、平成21年度から川の再生事業等により護岸等の整備を実施してきました。

令和3年度からは、「水辺周辺活用事業（農業用水）」として整備を実施しています。昨年度は、加須市大門町地内他の徒歩橋上下流の護岸改修を実施しました。今年度は、加須市浜町地内の栄橋上流左岸の護岸改修を行う予定です。安全で魅力的な水辺空間となるよう事業完了に向け整備を進めていきます。



令和5年度整備予定箇所
（栄橋上流）加須市浜町地内



整備前（徒歩橋上流）加須市大門町地内



整備後（徒歩橋上流）加須市大門町地内

【お問合せ】農村整備部 県営事業担当 TEL0480-62-4582

「騎西梨撰果所」の課題解決に向けて

～果樹産地育成総合対策事業を活用した統計処理システムの検証～

埼玉県では、各果樹産地が抱える課題を解決することを目的に、「果樹産地育成総合対策事業」を実施しています。

騎西地域は梨生産が盛んな地域で、「かぞブランド」として市場での人気も高い農産物となっています。「騎西梨撰果所」は昭和47年に建設され、梨の生産振興と市場付加価値向上の重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では施設の老朽化や品質の低下及び人件費等経費の増加が課題となっており、良品出荷及び経費の効率化が必要となっていました。そこで、本事業を活用して統計処理システムを導入し、検証を行うことにしました。

既にシステムは導入され、8～9月の梨の出荷に使用されています。現在、等級別データや糖度のデータを収集し、解析作業を進めているところです。このデータを活用することで、選果の効率化はもとより生産者別の生育状況や出荷成績の情報共有が可能となり、「かぞブランド梨」の出荷品質の向上が期待できます。 【お問合せ】 管理部 地域支援担当 TEL0480-61-3404



導入した統計処理システム



選果作業のスタートは目視から

北川辺とまと研究会 『エタノール土壌還元消毒』の試み

加須市北川辺とまと研究会では、20戸がトマト生産を行っています。土壌消毒の新たな試みとして、「エタノール土壌還元消毒」を導入しており、今年は7～8月にかけて4戸で実施しました。この土壌還元消毒は、太陽熱消毒や薬剤消毒に比べて深層まで消毒が可能ということで注目を集めている方法です。エタノール土壌還元消毒を実施した4戸の生産者ほ場では、実施から2、3週間後に土壌の還元状態を確認するため「ジピリジル反応」調査を行い、深層まで還元されていることを確認しました。

今後、北川辺ではトマトの定植が行われ来年の7月上旬まで収穫が行われます。最後まで皆さんのより良いトマトが収穫できるように、今後も支援していきます。



エタノール還元消毒実施の様子

(敷設したチューブより低濃度エタノールを投入)



ジピリジル反応調査

(土壌が還元状態であれば赤く呈色)

【お問合せ】 農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911